

テーマに対する民間委員からの主な意見の概要

【令和元年度 第3回産業戦略本部】

【テーマ】

滞在型・体験型観光コンテンツの充実によるまちの魅力創出について

地域産業振興構想の基本方針Ⅲに掲げる滞在型・体験型観光コンテンツの充実による萩の魅力を高めていく取組について、民間委員と広く意見交換を行いました。

（主な意見）

①インバウンドの誘致の対応について

・インバウンドに向けた行政の取組み方向は良いと思う。情報発信は、事前準備が特に大切で時期やターゲットを絞り、県や各種団体と連携してかつ継続的に実施に取り組んでいくことが重要である。

・受入環境については、今後は「5G」を見据えた各種施策にも取り組んでほしい。

・旅行客の形態が昔と変わっており、個人客はそれほど変わらないが、通過型ツアーのお客には滞在型・体験型といった需要が高まっていると感じる。萩焼体験や夏みかんや城下町のライトアップなど、これまであるものを積極的なPRをするとともに、市内の幅広い産業分野の事業者とタイアップした企画を商品化して打ち出していくことが必要だ。

・明神池や笠山椿群生林など自然に関しても魅力があるものも多く、こうした萩の魅力をもっと発信していく努力をしていくべきだ。

・体験型のコンテンツとしては、夏みかんのもぎ取り体験など、自分もやってみたいと思うものがある。他にも隠れたコンテンツは沢山あるはず。市民や事業者と向き合ってみんなで知恵を出して検討していけると良い。

・観光案内看板の修繕など、小さな気づきを徹底的に突き止めていくように取り組むことが重要なので、おもてなしの意識をもってそれぞれの立場で対応していくことが肝要だ。

・情報発信について、イベントや行事の内容にもよるが、一般的に萩の市民は地域の行事ごとに関心のない方が多いと感じる。一方で、インフルエンサーによって情報を入手し、若者が地域で活躍している話も聞く。地域のインフルエンサーとなる存在に行政も関係し、それらを活用して企画を進めていくことも良いのではないかと感じる。

・萩の魅力を発信するガイドやツールが色々あるが、あり過ぎてまとまりがぼやけているように感じる。分かり易く魅力を伝えるツールがあるとよい。

・観光目的のほか、例えばカヌーや柔道、マラソンなどのスポーツ大会等で萩に宿泊されることもあるが、市内の宿泊施設は比較的に高い価格帯の施設が多いといった実態がある。観光目的以外で安価な宿泊を希望される声も聞く中で、価格帯の安い「民泊」を利用する動きも近年高まっているが、萩市でも民泊利用が高まる可能性があるのではないかと感じる。

②豊富な食資源を活用した魅力創出について

・市内農業者は高齢化が進み、根菜類といった重量作物の生産者が減少傾向にある。こうした状況からJAでは、農業者に取組やすい軽量作物の品目を検討しており、近年は白ネギの生産が伸びてきている。今後はこの白ネギを新たな産地品目として重点的に取組んでいきたい。

・水産分野では、まず、今年度はイカが獲れていない。活魚を希望する事業者（九州方面）からはイカが欲しいとたくさんの電話をいただいている。有難いことだ。

・萩には良い農林水産資源があるが、地元の食材が食べられる飲食店、出されている宿泊施設が少ないと観光客からの声も聞く。地元食材が食べられるお店等の情報をもっとPRしてはどうか。

・原料のあるものが昔と違って変わってきている。ブランド食材を売っていくには、ある程度供給体制が確保できるものを商品化していかないと継続が難しい。かつて、魚のブランド化に金太郎や平太郎を使って商品化し、それなりに有名にもなったが、現在はその金太郎もなかなか十分な確保ができていない状況だ。原料が十分に確保できる商品と販売までの事業者間における連携が取れた体制の下でブランド開発を進めることが肝要だ。

・食に関しては、地域で長い時間を掛けてある程度認知のある、ブランド力のあるものをもって商品化していくことが大切だ。